

安全と環境を考えるニシオの広報誌

# 安全くん

2003  
Vol-2  
56

危険を自分で体感する。  
そこから始まる危険予知!! の巻



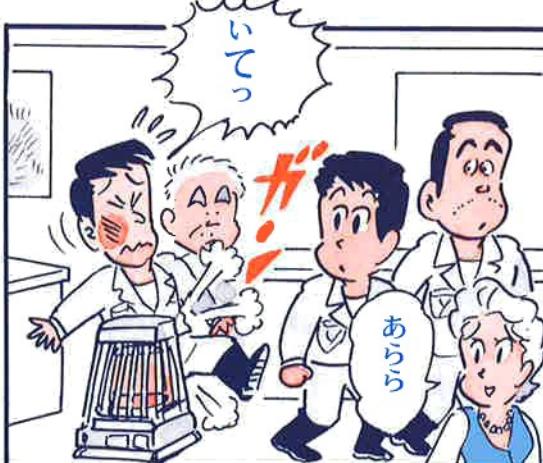
インターネットホームページ『安全くんネット』もご覧ください。  
<http://www.anzenkun.nishi-o-rent.co.jp/>

この広報誌は、再生紙を使用しています。>

# それ行け!! 安全くん

画 中村よしのぶ

「危険を自分で体感する。  
そこから始まる危険予知！」の巻





## 解説コーナー

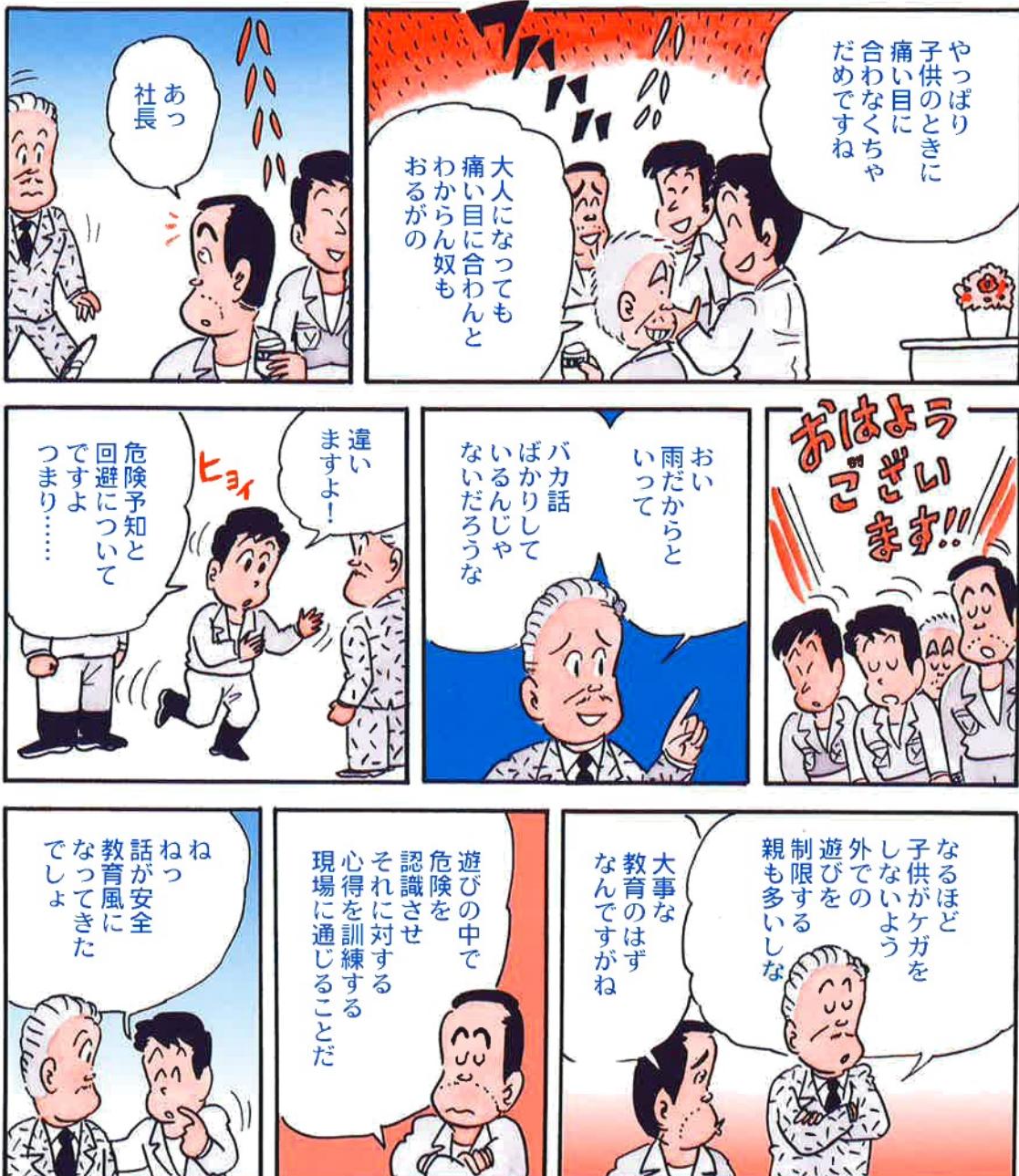
### 「戸締まりをしたか不安になったことはありませんか?」～よい習慣があなたを守る～

◆家を出てから鍵をかけたかどうか、ふと気になる。あなたもありますね。このような時、どうしますか?

「(イ) どんなことがあっても必ず戻り、確認する。(ロ) 不安なまま一日を過ごし、早めに帰宅する。(ハ) 自分を信じて気にしないようにする。」これらは、過去の自分の経験によって大きく左右されるようです。実際に鍵を掛け忘れていた経験があれば、(イ) の行動を取る人が多いようです。また、帰ってみればちゃんと鍵が掛かっていたという経験が多い人は(ロ) か(ハ) の行動をとるのでは?

◆では、安全上、問題の人はどう選んだ人でしょうか?

- ・ "とにかく確認する"、という姿勢の(イ)の方は、過去の失敗をもとに非常に慎重な方といえます。
  - ・ "自分を信じて、気にしない"、という(ハ)の方は、今まで、「たまたま事故にあわなかつた」というだけで、大きな落とし穴に落ちる可能性があります。
  - ・ では、(ロ)の方はどうでしょうか? このような方は、一日中不安な気持ちを持ったままの状態になり、また別の失敗を起こす恐れがあります。つまり、事故を起こしやすい、事故に遭いやすい人物像といえます。
- ◆こんな時は、時間が掛かっても安全を確認することが大切。でも、もっと良いのは家を出る段階からしっかり火の始末や戸締りの確認を行うという習慣をつけることです。その意味で「指差呼称」は、無意識でなくしっかり意識して確認と記憶ができる良い方法です。こうしておけば、不安感も解消され、よい仕事ができるはずです。



## 災いは据え付けから ~レバーブロックの安全~

鉄骨歪み取りや荷の引き寄せに使用されるレバーブロック。据え付け方を間違えるとチェーンの破断やフック脱落による荷の落下事故など大きな事故を招きます。正しい使い方についてまとめてみましょう。

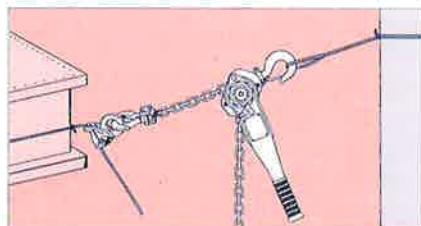
### ●据え付けは強度と荷重！

設置する場所に十分な強度があるか確認を。本体を据え付ける保持物は、定格荷重の4倍以上のものを使用します。保持物が負荷に耐られるものであるか確認し、上下のフックが一直線の状態になるようにセットしてください。(図) 本体やフックに曲げの力がかかると破損する恐れがあります。

### ●日常の点検ポイント

- ①目視で分かる変形や部品紛失、レバーの変形、チェーン止め金具の紛失等のない事。
- ②ロードチェーンにキズ、変形、磨耗がないか。
- ③切換えつまりを逆転にし、送りハンドルを時計方向に回転させ爪がカチカチと音がすることを確認する。

ご使用後は、泥や水気を拭き取ってロードチェーン、フックの首部などにグリスを塗って保管ください。



# サンさんのワンポイントレッスン

## 『“動物的？”カンにも科学的根拠がある！』

先日、人間の“カン”についてのテレビ番組がありました。その中で、臭いをかがず見た目で本物のラーメン（スープ）やワインを当てる実験では、それが好きでよく食べている飲んでいる人は、微妙な部分の違いを感じ、本物を当てていました。

つまり“カン”は、過去の経験、記憶などが結合して出てくるもので、特に日頃注意していること、気にしていることは、よく整理されて脳に記録されていく、とっさの判断や行動につながっていくようです。現場でも、“カン”で勝負しているような職人さんが数多くおられます、その裏づけは過去の豊富な経験と普段から意識して作業に取り組んでいる結果なのです。

安全対策についても、法で定められた対策だけでなく、ベテランといわれる方々の理屈抜きの“カン”も十分尊重していただきたいもの。法律上の数字や測定値による分析に頼っていると、本当の危険は見えなくなります。ベテランとよばれる職長さんたちも、法的な措置だけでなく、自分の感覚を大切に！ そのためには、朝一番に現場を一回りしてみること。常に作業員と同じ目線や場所に立って安全確認をしてください。



この後は岩田班のために安全講話をやろう！ それじゃよし



## 水気をご用心！～エアツールの正しい使い方～

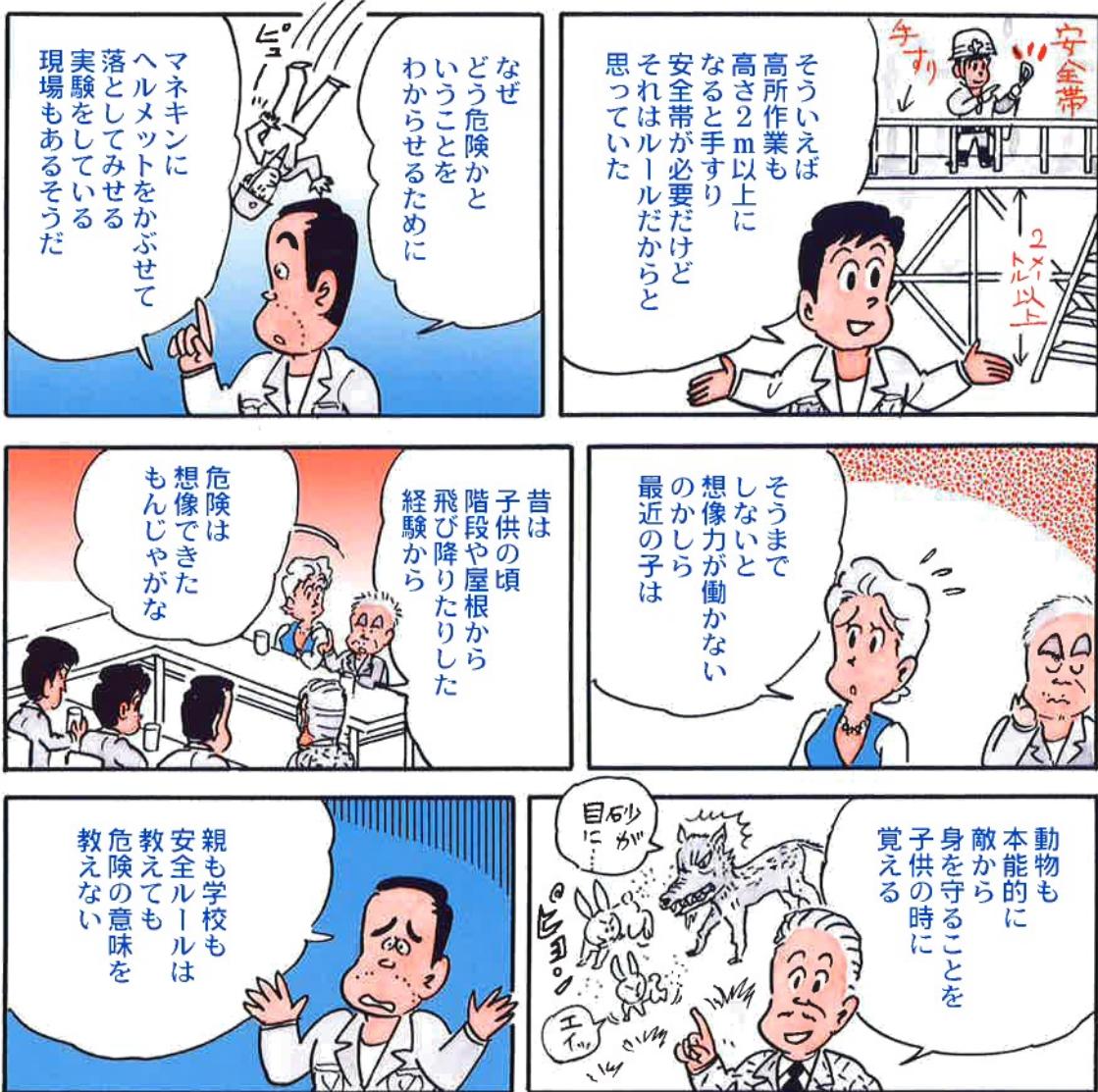
エア工具は、圧縮空気に含まれる水気がトラブルの要因となります。圧縮空気に水分が含まれたままエア工具へ供給されると鋸びが内部に発生し部品を劣化させ破損します。エアホースを工具に接続する前に、水やゴミが出なくなるまでエアーを吐出させてください。エアホース接続の際はニップル口元のゴミを必ず拭き取ってください。

### ●使用前の安全チェック

- ①チゼル先端部の磨耗やシャンク部の磨耗があると、打撃力が低下し作業の効率も低下します。また亀裂があると折損する恐れがあるので新品と交換を。
- ②エアホース取付口ニップルのネジがゆるんでいないか点検してください。緩んだままだとエアホースと共に外れ、ホースが暴れるなど危険な状態になります。
- ③給油を怠ると鋸や磨耗が発生し故障の原因。使用前と使用後に数滴給気口より補給し2・3秒無負荷回転を行ってください。エンジンオイルなど粘度の高い油は機械の調子を悪くします。作動油又はダーピング油を使用してください。







### 解説コーナー

「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」



「かせて」それだけ、とか「させてみて」文句ばかりいっている。また、いまさら「やってみせ」るなんて…。「ほめてやる」とつけあがる…。という気持ちもあるでしょう。

皆さんも経験があるでしょうが、基本通りの安全行動というのは、“プロのやることではない”、“バカにされる”、“時間やコストもかかり合理的でない”というようなイメージがありますよね。逆に、きちんとやるには非常に“勇気がいる”、という人のほうが多いようです。職長さんが、見本を示さなくては誰もついてきません。そして、仕事の早さ、正確だけに注目するのではなく、安全に注意して作業しているメンバーもほめてあげてください。安全ルールに従って慎重に作業しているメンバーの“勇気”をみんなにも広げていただきたいと思います。

これは、山本五十六元帥の言葉として有名ですが、仕事を教えるにあたっての指導者の心得を説いたものです。しかし、これを「安全教育」に置き換えた時、皆さんはどれくらい実践しているでしょうか？職長さんは、仕事を教えるだけで、「安全面については安全担当者の仕事だ」という認識の方が大半では？「言って聞かせて」それだけ、とか「させてみて」文句ばかりいっている。また、いまさら「やってみせ」るなんて…。「ほめてやる」とつけあがる…。という気持ちもあるでしょう。

